

普通期水稻 田植前後管理

～初期成育向上のための水管理を徹底し高品質・高収量を目指す！～

1. 田植前の管理

- (1) 田圃の準備 乾いたときに耕起を行う。古草、ジャンボタニシ抑制効果
また、高低差を無くす事で、水管理がスムーズになる。
- (2) 基肥 施肥基準（水稻栽培管理帳）を厳守し、極端な増肥は行わない。
※増肥すると穂肥が出来なくなったり、過繁茂になってやせ米になる。
- (3) 代かき 水管理の徹底を考慮し、出来るだけ高低差を無くす。
除草剤の効果向上、ジャンボタニシ食害防止。

2. 田植～田植後の管理

- (1) 植え付け本数 1株当り 夢つくし・元気つくし4本 その他品種3本で植え付けを行う。
- (2) 植え付け幅 株間18～22cmが目安。倒伏防止、登熟向上、病害虫防止
- (3) 田植後水管理 ①活着促進のため田植後3日～5日はやや深水管理に努める。
②ジャンボタニシ多発田は浅水管理（ひび割れしないように注意）徹底する。
活着期に水不足となると、生育遅れや分けつが少なくなる等悪影響が出る。
薬剤対策 スクミノン 1～4kg 又は、スクミンベイト3 2～4kg
③野菜、麦作後は（田植え5日後頃）ガス抜きの為に干す。
（高いところが少しひび割れる程度）
④除草剤散布後7日間は落水しない。ジャンボタニシに注意
その後は間断灌水（3日湛水、4日落水）を繰り返す。

《水管理モデル》

田植	～	田植4～7日頃	～	田植7～10日後	～	田植14～17日後以降
やや深水		野菜・麦作後はガス抜き		除草剤散布		間断灌水開始
ジャンボタニシに注意				深水、ジャンボタニシに注意		

- (4) 除草剤散布 除草剤使用基準（水稻管理栽培帳）を守り適期散布に努める。
◎田植後の初期除草剤を使用する場合、散布時は充分水を確保し（田面が露出しないように！）
散布後7日間は出来れば深水中で落水しない（除草効果向上、水質環境保全のため）
初期除草剤使用後、雑草が残った場合は、中期除草剤を使用する。（水稻管理栽培帳参照）

- (5) 病害虫対策・・・今年の5月・6月は曇雨天が多い予報となっています。
苗いもちは、発生する前に箱施薬剤の施用を早めにする。
葉いもちは、置き苗が発生源となるので、補植が終わったら早急に除去。
例年のウカ・コブノメイガ・ウンカの初飛来は6月中旬頃からです。注意！！

※**農薬散布時は周辺作物への飛散防止を徹底しましょう！！**

※**各作業後は、栽培管理帳に必ず記入しましょう。**